

一石彫成五輪塔 (平安時代後期) (広瀬)

倉吉市有形文化財 昭和61年 (1986)

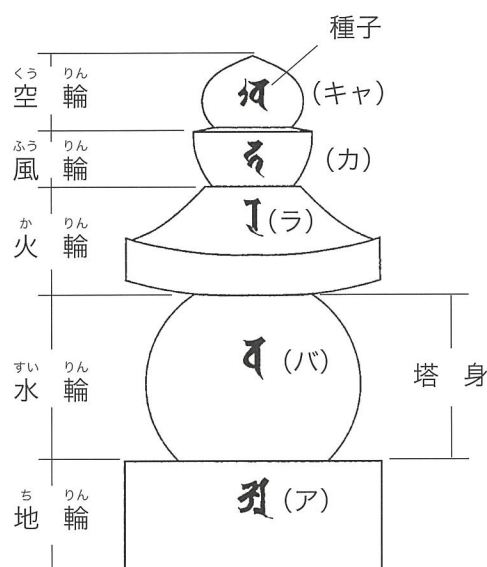
五輪塔は、^{みつぎょう}密教が説く宇宙を構成する五つの要素 (地・水・火・風・空) をかたどったものである。

平安時代の中ごろから造られだし、鎌倉時代から室町時代にかけて多く見られるようになった。

本来は、供養塔であったが、後に墓標としても用いられている。

多くの五輪塔は、地輪・水輪・火輪・風輪・空輪が別材で造られているが、本一石彫成五輪塔は、^{ぎょうかいがん}凝灰岩の一石で彫り出されている。水輪が細長く、空輪・風輪がほかの五輪塔に比べ大きく造られているのが特徴である。

平安時代後期12世紀ごろの作と考えられる。全国の石造五輪塔の中で最も古い段階に位置づけられる貴重な遺物である。本塔については山川出版文化財探訪クラブ8『石仏と石塔』に紹介されている。



(注)

ヒイデ山：納金山の対岸に有る一石彫成五輪塔がある
一帯の地名

五輪塔